



サルコイドーシス

「サルコイド」はラテン語で「肉のようなもの」という意味で、「サルコイドーシス」とはそれが全身にできてくる疾患であることを意味しています。肉のようなものとは肉芽腫にくげしゅといわれるしこりで、マクロファージやリンパ球といった白血球のなかまが集まってできています。この肉芽腫が、リンパ節、目、肺、心臓など、全身の臓器にできて、さまざまな障害を起こす疾患です。



疫学

人口10万人に対して1.7人の発生率で、性別では女性が男性の2倍多いとされます。年齢別では、男女ともに20歳代と50歳代以降に2峰性に多く、とくに男性は若年者、女性は高齢者に多くみられます。

▶ 肺サルコイドーシス

健診の胸部X線写真で、肺のリンパ節しゅだいが腫大していることで偶然発見される場合が多いです。自覚症状はほとんど無く、8割は自然になおってしまいます。進行すると呼吸不全を起こします。

▶ 眼サルコイドーシス

日本では欧米に比べて、ブドウ膜炎という、眼症状をきっかけに眼科を受診し、サルコイドーシスが発見されることが多いのが特徴です。自覚症状としては、かすみ目や飛蚊症のほか、充血やまぶしさといった症状がでます。

▶ 皮膚サルコイドーシス

皮膚サルコイドがよくできる場所は、鼻の横、額、頬、上下肢、胸や背中、腹部や臀部などで、痛くも痒くもない赤い斑点ができるのが一番多いパターンで、皮膚の下にしこりが触れます。

▶ 心臓サルコイドーシス

サルコイドーシス患者の20%以上に心臓病変があるとされ、サルコイドーシスの死因で最も多いものです。大きく分けて2種類の病態があり、1つは不整脈をおこす場合で、ペースメーカーの挿入が必要とされることもあります。もう1つは心臓の収縮力が低下して、心不全にいたる場合です。

▶ 神経サルコイドーシス

脳や髄膜や脊髄や末梢神経のどこにでもできる可能性があり、侵される部位によってさまざまな神経症状をきたします。多いのは、顔面神経麻痺です。

▶ 筋肉

ふくらはぎの筋肉が侵されやすく、腫瘍しゅりょうを形成してきます。

▶ 骨

手指骨、足趾骨が侵されやすいのが特徴で、多くが痛みを訴えます。

▶ 表在リンパ節

表在のリンパ節が痛みもなく腫れてくることがあります。

▶ 肝臓、脾臓

肝臓や脾臓にサルコイドーシスによる肉芽腫ができていることはかなり多いのですが、症状を呈してくることは極めて稀です。

▶ 臓器非特異的な全身症状

サルコイドーシスでは「疲れ」「息切れ」「痛み」「発熱」など、説明のつかない全身症状を訴えられる方が非常に多いことがわかっています。

診断

血液中のアンギオテンシン変換酵素へんかんこうそやリゾチームという酵素が増えて、蛋白分画中のガンマグロブリンや血中・尿中カルシウムが高値になるということがありますが、すべての患者さんでみられるわけではありません。確定診断のためには、生検によって、病巣の組織るいじょうひさいぼうにくがしゅの中に類上皮細胞肉芽腫を見つけることが必要です。

治療

自然に改善することが多い疾患ですので、症状の軽い例では自然改善を期待して経過をみるのが一般的です。しかし、強い症状のある場合、病状が進行してきた場合、検査値で大きく異常がある場合には、積極的な治療が必要です。とくに心臓病変があるときには必ず治療が必要です。現在のところ、治療薬はステロイドとメトトレキセートなどの免疫抑制剤で治療するのが一般的です。